



◆エネルギーの地産地消

問 再生可能エネルギー普及の市の取り組みは。(古畑)

答 本年度は、普及拡大のために補助制度を改正した。設備設置の補助は、ペレットストーブ・ボイラー及び薪ストーブで限度額を増額し、燃料

答 現在の登録物件が4件、過去の成約実績が2件。今後はシティブロモーションの移住定住好住アクションプランの中で空き家の活用を具体化したい。

答 市条例は国の特別措置法と密接に連動しているが、緊急安全措施や適正管理審査会の設置等、法で規定されない内容も一部盛り込んでいます。

問 市の空き家バンク制度があまり機能していないように思われるが利用実態はどうか。(篠原)

答 現在の登録物件が4件、過去の成約実績が2件。今後はシティブロモーションの移住定住好住アクションプランの中で空き家の活用を具体化したい。



放置された空き家



野生動物との緩衝帯整備

◆鳥獣被害対策

問 山林に生息する動物の食糧難も原因と考えられるが、森林整備計画に合わせ実のなる広葉樹の植栽が必要と思うがどうか。(古畑)

答 県も広葉樹を4割から6割に増やす指針を出してきている。市有林にもクヌギなどを植えているが、今後も計画

◆農業従事者育成

問 ワイン大学開校による効果はどうか。(古畑)

答 4年間の研修に35名が受講し、ワイナリーを目指す受講生もいる。8名が農地を借り5名がぶどうの植栽を行うなど、農業従事者の育成にも一役かっている。

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処

塩尻の農業を守る



◆ペレット製造は塩尻ではできないか。(古畑)

答 搬送コスト削減には地元製造が望ましい。1千トンをめどに、民間の参入も視野に入れて検討していく。

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処



ワイン大学

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処

◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処



木曾くらしの工芸館

伝統・文化 世界に発信



◆有害鳥獣対策

問 個体数を減らすために困難となる要因は。(小澤)

答 作物の残渣を放置しないなどのパンフレット配布、ジビエの普及を図っている。県は難色を示しているが、殺処